

令和6年4月24日

釧路市長 蝦名 大也

アイヌ政策推進交付金事業実施要綱（令和元年９月６日付け府ア推第５号）第３条第３項に基づき、アイヌ施策推進地域計画の評価結果について別紙のとおり報告します。

(参考様式別紙)

アイヌ施策推進地域計画 事後評価報告書

実施主体名	計画の名称	目標年度
釧路市	釧路市アイヌ施策推進地域計画	令和5年度

1. 目標の達成状況

アイヌ施策推進地域計画における目標	目標値 A	実績値 B	達成率(%) B / A	備考
① 体験交流事業の参加人数(伝統的なアイヌ文化・生活の場の再生支援事業)	60 人／年 間	111 人／ 年間	185%	
② イベント参加者数(阿寒湖原産のヒメマス祭り(カパチェプノミ)情報発信事業)	200 人／ 年間	220 人／ 年間	110%	
③ 伝承会開催回数(アイヌ音楽文化育成事業)	20 回／年	128 回/年 (R 4)	640%	R5 は交付金配 分調整のため 事業未実施
④ オンネチセ利用者数(阿寒湖アイヌ文化体験事業)	3,000 人／ 年間	3,082 人／ 年間	102.7%	
⑤ 阿寒湖温泉延宿泊者数(アイヌ文化ガイド事業、阿寒湖アイヌアーティストのブランド化事業、アイヌ文化関連観光プロモーション事業、アイヌ文化情報発信体験拡散プロモート事業、アイヌ文化フェスティバル開催事業)	52.3 万人 ／年間	41.7 万人 ／年間 (速報値)	79.7%	
⑥ 相談件数(阿寒湖アイヌ文化ブランド化に向けた知的財産保護事業)	20 件／年 間	46 件／年 間	230%	
⑦ 阿寒湖アイヌコタンへの来訪者数(阿寒湖アイヌコタン活性化事業)	165 人／日	85 人／日	51.5%	
⑧ 制作種類(アイヌ工芸技術後継者育成事業)	3 種類／年 間	3 種類／年 間	100%	
⑨ 博物館入館者数(釧路市立博物館アイヌ文化展示コーナー強化事業)	2 万人／年 間	2.7 万人／ 年間	135%	
⑩ 釧路市動物園入園者数(神々(カムイ)に逢える釧路市動物園整備事業)	11 万人／ 年間	—	—	実施設計

⑪ 阿寒町緑町生活館、春採生活館の延べ 利用人数（高齢者コミュニティ活性化 による文化知見の伝承・共有化事業）	5,600 人／ 年間	4,238 人 ／年間	75.7%	
⑫ 春採生活館の延べ利用人数（春採生活 館アイヌ地域交流拠点整備事業）	4,000 人／ 年間	3,052 人／ 年間	76.3%	
⑬ 阿寒町緑町生活館の延べ利用人数（緑 町生活館アイヌ地域交流拠点整備事 業）	1,600 人／ 年間	1,186 人／ 年間	74.1%	

アイヌ施策推進地域計画における目標	達成状況		備考
① 体験交流事業の参加人数（伝統的なア イヌ文化・生活の場の再生支援事業）	目標は達成した。		
② イベント参加者数（阿寒湖原産のヒ メマス祭り（カパチェブノミ）情報 発信事業）	目標は達成した。		
③ 伝承会開催回数（アイヌ音楽文化育 成事業）	目標は達成した。（R4）		
④ オンネチセ利用者数（阿寒湖アイヌ 文化体験事業）	目標は達成した。		
⑤ 阿寒湖温泉延宿泊者数（アイヌ文化 ガイド事業、阿寒湖アイヌアーティ ストのブランド化事業、アイヌ文化 関連観光プロモーション事業、アイ ヌ文化情報発信体験拡散プロモー ト事業、アイヌ文化フェスティバル 開催事業）	コロナ禍長期化の影響により目標値には 至らず未達となった。		
⑥ 相談件数（阿寒湖アイヌ文化ブラン ド化に向けた知的財産保護事業）	目標は達成した。		
⑦ 阿寒湖アイヌコタンへの来訪者数 （阿寒湖アイヌコタン活性化事業）	コロナ禍長期化の影響により目標値には 至らず未達となった。		
⑧ 制作種類（アイヌ工芸技術後継者育 成事業）	目標は達成した。		
⑨ 博物館入館者数（釧路市立博物館ア イヌ文化展示コーナー強化事業）	目標は達成した。		
⑩ 釧路市動物園入園者数（神々（カムイ） に逢える釧路市動物園整備事業）	—		実施設計

⑪ 阿寒町緑町生活館、春採生活館の延べ利用人数（高齢者コミュニティ活性化による文化知見の伝承・共有化事業）	阿寒町緑町生活館は長期化していたコロナ禍の影響が続き会議や講習会の開催・出席者が激減、また、春採生活館では外構工事と旧施設の解体で一部利用制限があったことから未達となった。	
⑫ 春採生活館の延べ利用人数（春採生活館アイヌ地域交流拠点整備事業）	春採生活館については令和 5 年度当初より新施設の供用を開始したが、外構工事を 2 カ年（令和 4 年度～令和 5 年度）に分けて実施したことにより、供用開始後も駐車場の整備や旧施設の解体工事が発生し、工事期間中に生活館の利用が一部制限されたため、利用者が当初の見込より減少し未達となった。	
⑬ 阿寒町緑町生活館の延べ利用人数（緑町生活館アイヌ地域交流拠点整備事業）	コロナ禍が長期化した影響で、大人数が参加する会議や講習会が減ったことにより、目標値には至らなかった。	
（コメント） コロナ禍長期化の影響や（⑤・⑦・⑪・⑬）、工事期間中による利用の一部制限（⑫）、交付金の配分調整により未実施（③・⑩）の事業を除く他事業について、目標達成することができている。		

2. 目標達成のために実施した各事業の進捗状況と効果

事業の進捗状況	事業実施主体
① 伝統的なアイヌ文化・生活の場の再生支援事業については、生活空間の維持管理、有用植物の育成が行われている。また、体験交流事業を通じて、普及啓発を行っている。	釧路市 釧路アイヌ協会 (一社)阿寒アイヌコンサルン
事業の効果	
伝統的なアイヌ文化・生活の場の再生支援事業により、伝統的生活空間の維持管理と有用植物の育成を実施し、アイヌ文化の保存・継承をすることができ、また、体験交流事業の参加者数が着実に増加しており（延べ 514 人）アイヌ文化の普及啓発をすることができた。	
事業の進捗状況	事業実施主体
② 阿寒湖原産のヒメマス祭り（カパチェプノミ）情報発信事業については、次世代へのアイヌ文化伝承・継承のために記録映像の制作及び儀式等の解説書の製作とともに、観光客等にアイヌ文化全般に対する興味関心を深めてもらうためにヒメマス祭りを中心とした	釧路市 阿寒アイヌ協会

アイヌ文化を紹介するパンフレットを制作した。	
事業の効果	
記録映像の制作及び儀式等の解説書の製作により、カムイノミをはじめとする様々なアイヌの伝統儀式の次世代へのアイヌ文化伝承・継承ができた。また、ヒメマス祭りを中心としたアイヌ文化を紹介するパンフレットを制作・配布することでヒメマス祭りの効果的な発信が可能となり、イベント参加者数の増加（R3_162人→R5_220人）とともにアイヌ文化に興味関心を持つ人の増加につなげることができた。	
事業の進捗状況	事業実施主体
③ アイヌ音楽文化育成事業については、令和3～4年度とアイヌ民族の伝統楽器であるムックリやトンコリの演奏技術や伝統音楽を継承するため、アイヌ音楽教室や演奏会を開催したほか、令和3年度ではアイヌ音楽の作詞作曲も行っている。	(一社)阿寒アイヌコンサルン
事業の効果	
アイヌ音楽文化育成事業により、アイヌ音楽教室においてアイヌ民族の伝統楽器であるムックリやトンコリの演奏技術や伝統音楽の継承をし（延べ177人）、アイヌ民族子弟によりアイヌ語を織り交ぜたアイヌ音楽も作詞作曲され、発表会を通じてアイヌ伝統楽器や伝統音楽の普及啓発に繋げることができた。	
事業の進捗状況	事業実施主体
④ 阿寒湖アイヌ文化体験事業については、オンネチセにアイヌアート等を展示する機能を持たせたほか、それらを多言語で紹介する解説パネルを設置した。またカムイノミ等の伝統儀式を行うための炉や伝統料理等を提供できる調理機能なども追加され、観光客などがアイヌ文化を気軽に体験できる食や舞踊などの体験メニューも開発されている。	阿寒アイヌ工芸協同組合
事業の効果	
阿寒湖アイヌ文化体験事業については、一連の改修によりオンネチセにアイヌアート等を展示する機能のほか、カムイノミ等の伝統儀式を行うための炉や伝統料理等を提供できる調理機能などが追加され、同施設は体系的にアイヌ文化を学び体験できる場として整備されたことにより利用者数が着実に増加しており（R2_607人→R5_3,082人）アイヌ文化の普及啓発のために大きな効果を発揮しており、改修後は年々利用者数が増加している。	

事業の進捗状況	事業実施主体
⑤ ・アイヌ文化ガイド事業については、アイヌ文化を実感・体験し、理解してもらい、阿寒湖温泉の観光振興を図るため、ガイドツアー商品の造成やその販売のためのプロモーション、商品のブラッシュアップやプロモーションに向けたマーケティングを行ったほか、ガイド用のマニュアル整備、PR 素材（画像・動画）の作成等を実施した。 ・阿寒湖アイヌアーティストのブランド化事業については、アイヌアーティストのプロモーションのため、それぞれの取り組みや商品の動画作成、スチール写真の撮影等を行った。また、アイヌコタンの更なるブランド化を図るためアートギャラリー運営や各種メディアとのタイアップ等により、情報発信を行ったほか、都市圏での企画展・営業活動により工芸品等の販路開拓を行った。 ・アイヌ文化関連観光プロモーション事業については、阿寒湖アイヌシアター「イコロ」で上演される演目の磨き上げを行い、特に「イオマンテの火まつり」は、タイトルを「阿寒ユーカラ『火のカムイの詩』」と改めるなどフルリニューアルを行った。また、新演目「満月のリムセ」を完成させることができた。また、四季ごとのアイヌの人々の暮らしを紹介する動画制作に取り組み、四季の4作品を完成させ、YouTube アイヌコタンチャンネルを公開（80 万回再生）することができた。そのほか、発信力のあるインフルエンサーを招聘し、アイヌ文化を中心とする阿寒湖温泉の季節を代表するコンテンツを体験し、その体験記を SNS や雑誌の WEB 媒体に掲載し P R（計 23 回）を行った。 ・アイヌ文化フェスティバル開催事業について、令和元年度は有観客、令和 2・3 年度は無観客でのオンライン開催、令和 4 年度は有観客とオンライン開催を実施し、阿寒湖のアイヌアーティストと国内外で活躍する著名なアーティストとの舞踊や歌のライブセッション等を行った。令和 5 年度は、有観客で観客も参加しながら各地のアイヌ舞踊と歌を披露することができた。オンライン開催や	R 元：ソーゴー印刷株式会社 R 2～5：株式会社 JTB R 元～5：阿寒アイヌ工芸協同組合 R 元：阿寒アイヌ工芸協同組合 R 2～5：（一社）阿寒アイヌコンサルン R 2：株式会社ロフトワーク R 元・3～5：株式会社電通北海道 R 元～2：株式会社ドンクエンタープライズ R 2～5：株式会社電通北海道 R 3～4：株式会社ノヴェロ R 3：WOW 株式会社 R 元～4：有限会社ズノーネットワークス R 5：DEZAR JAPAN 株式会社

SNS の発信等により国内外に広くアイヌ文化を発信することができた。(フェスティバル延べ参加者数 488 人) ・アイヌ文化情報発信体験拡散プロモート事業については、これまで大阪(R1)、鳥取・山口 (R3) において、阿寒湖のアイヌ古式舞踊等の公演活動を行ったほか、地域の観光事業者等へのツアー商品等のプロモーション活動も併せて行った。	株式会社 J T B 北海道
事業の効果	
アイヌ文化ガイド事業については、阿寒アイヌ工芸協同組合が催行するガイドツアーの参加者数が令和 2 年度の 174 名から令和 5 年度の 449 名に増加するなど、新型コロナウイルス感染症の影響下においても確実に実績を伸ばしており、また参加者満足度は 99%以上と非常に高水準である。満足度の高いアイヌ文化体験コンテンツを多くの旅行者に体験いただくことで、旅行者への阿寒湖のアイヌ文化の普及・啓発や、アイヌの方々の所得向上に寄与している。 阿寒湖アイヌアーティストのブランド化事業については、メディアを活用したアーティスト PR 動画等による情報発信や都市圏での企画展で P R を行ったほか、新たな商品開発や新規販売ルートの開拓を行ったことにより、阿寒湖のアイヌアーティストと作品の認知度を向上させるとともに、阿寒湖温泉の知名度を高め、コタン来場者数や宿泊客数の増に寄与した。 アイヌ文化関連観光プロモーション事業については、阿寒湖アイヌシアター「イコロ」で上演される演目の磨き上げを行い、「アイヌ古式舞踊」、「阿寒ユーカラ『火のカムイの詩』」、「阿寒ユーカラ『ロストカムイ』」を上演することができた。さらに、新演目「満月のリムセ」を完成させることができた。また、インフルエンサーを活用した情報発信事業では、WEB 記事で 2 3 回掲載することができた。さらに、四季の動画の 4 作品については、YouTube の阿寒湖アイヌコタンチャンネルにて公開したところ合計再生回数が 8 0 万回となっており、多くの方に阿寒湖のアイヌ文化を発信することにより、文化や伝統の普及啓発に寄与した。 アイヌ文化フェスティバル開催事業の実施により、アイヌの音楽や舞踊といったアイヌ文化の認知度が向上し、ライブ中の視聴者コメントに「今年は家族で阿寒湖に行きます。」「現地で体感したい。」など書き込みがあったことから、旅行者の阿寒湖来訪需要を喚起することができた。 アイヌ文化情報発信体験拡散プロモート事業については、国内のアイヌ文化にあまり馴染みのない地域の方々への情報発信により普及啓発に大きな効果があるほか、アイヌ文化という地域の特色を強みにした観光プロモーションという部分でも誘客効果が認められる。	

事業の進捗状況	事業実施主体
⑥ 阿寒湖アイヌ文化ブランド化に向けた知的財産保護事業については、アイヌ文化の活用に関する民間事業者等からの相談業務（R5_46件）に取り組んだほか、地元企業のボールペン、ふきん、ポストカードなどの商品向けにアイヌ文様デザインが施された新たなパッケージを制作しアイヌ文様デザインの普及啓発につながる取り組みを行った。また、市内のバス事業者の運行する路線バスにアイヌ文様デザイン入りのラッピングバスを導入し、アイヌ文化の認知度向上に向けた取り組みを行った。	(一社)阿寒アイヌコンサル 株式会社 北日本広告社 釧路支社
事業の効果	
阿寒湖アイヌ文化ブランド化に向けた知的財産保護事業については、相談業務や釧路空港などの広告を通じてアイヌ文様やアイヌ語などの正しい使い方等について、多くの人の理解を深めることができた。またラッピングバスの運行や商品パッケージの開発等により、アイヌ文様デザインの活用についても関心を高めることができた。	
事業の進捗状況	事業実施主体
⑦ 阿寒湖アイヌコタン活性化事業については、阿寒湖アイヌコタンの情報発信を目的に、令和3年度は阿寒湖アイヌコタンマップ及びWEBページの作成、令和4年度は釧路空港で阿寒湖のアイヌ工芸家等による作品やアイヌデザインを活用した製品を展示したアイヌ工芸情報発信ブースの設置を行った。	株式会社 北日本広告社 釧路支社
事業の効果	
阿寒湖アイヌコタン活性化事業で作成した、阿寒湖アイヌコタンマップ及びWEBページにより、各店舗の特徴や個性を観光客等が情報を入手しやすくなり、気軽に立ち寄りやすい仕組みづくりをすることができたほか、釧路空港でのアイヌ工芸情報発信ブースの設置により、多くの観光客に阿寒湖温泉及び阿寒湖アイヌコタンの魅力を効果的に情報発信することで、阿寒湖アイヌコタンへの来訪者の増加に繋がった。	
事業の進捗状況	事業実施主体
⑧ アイヌ工芸技術後継者育成事業については、令和元年度から木彫作品の制作を通じて技術継承の取り組みが行われたほか、令和3年度からはムックリ制作、令和4年度からはアットゥシ制作の技術継承にも取り組んだ。また、アイヌ文化の伝承・技術継承の拠点となる阿寒アイヌクラフトセンターの整備を実施し、令和6年度から供用開始となる。	阿寒アイヌ工芸協同組合 阿寒アイヌコンサル 小野寺組 三東・丸坂 特定共同企業体

事業の効果	
アイヌ工芸技術後継者育成事業により、制作技術の継承が危ぶまれていた大型木彫作品等について、着実に次世代を担う者に技術継承を行うことができた。また、同じく制作技術の途絶が危惧されたムックリ及びアットウシの制作技術についても、将来的な阿寒湖アイヌコタンでのムックリの生産、アットウシ制作に向けて技術継承を行うことができた。	
事業の進捗状況	事業実施主体
⑨ 釧路市立博物館アイヌ文化展示コーナー強化事業については、2019 年度に設置した映像コーナーで上映するオリジナル・コンテンツを 3 作品委託制作し、その他の釧路地域のアイヌ文化に関わる既存の映像とあわせて同コーナーで視聴できるように整備した。また、アイヌ文化に関わる企画展とその関連行事の開催、各種体験講座などの実施を継続的におこなっている。	釧路市立博物館
事業の効果	
釧路市立博物館アイヌ文化展示コーナー強化事業により、来館者に従来の伝統的なアイヌ文化を知ってもらうだけでなく、現在の文化伝承について紹介する展示を提供できている。また、企画展や体験講座を通じて、様々な切り口からアイヌの歴史や文化について紹介し、来館者にもものづくりや言葉を通してアイヌ文化をより深く理解してもらうことに寄与している。	
事業の進捗状況	事業実施主体
⑩ 釧路市動物園整備事業について、動物園が阿寒湖や釧路市内のアイヌ文化関連施設等へ旅行者を誘う拠点となるとともに、来場者の動物とアイヌ文化との深い関係性の理解を深めるために、北海道に生息する動物たちとアイヌの暮らしとの関わりを理解できる施設の整備を進めている。	釧路市
事業の効果	
施設の整備については実施設計まで進めることができた。	
事業の進捗状況	事業実施主体
⑪ 高齢者コミュニティ活性化による文化知見の伝承・共有化事業については、アイヌ民族高齢者が保有するアイヌの文化知見を次世代に受け継ぐため聞き取り調査を行うと同時に、アイヌ文化の伝承者で著述家の故山本多助エカシの記述ノートや資料の翻刻を行っている。	(一社) 阿寒アイヌコンサルン

事業の効果	
高齢者コミュニティ活性化による文化知見の伝承・共有化事業により、地域のアイヌ民族高齢者の文化知見を聞き取りし、次世代に受け継いでいく資料の作成することができた。また、山本多助氏記述ノート及び収集した資料を翻刻・デジタル化し、釧路地方のアイヌ語や文化などを明らかにし、今後のコミュニティ等活動の基礎資料を作成することができた。	
事業の進捗状況	事業実施主体
⑫ 春採生活館アイヌ地域交流拠点整備事業については、アイヌの人々と地域住民との交流の場としての機能強化を図るため、釧路市春採生活館をアイヌ地域交流拠点として、アイヌの儀式や春採のアイヌ古式舞踊等の伝承活動を執り行うための文化伝承室とアイヌ語教室等を通じたアイヌの人々と地域住民との交流活動を行う地域交流室等を整備した。	釧路市 R 2：(株)長谷川建築設計事務所 R 2：環境コンサルタント(株) R 2：東邦コンサルタント(株) R 4～5：宮脇土建(株) R 4：阿部電気工業(株) R 4：太平洋設備(株) R 4：(株)ルート R 4～5：(一社)阿寒アイヌコンサルン R 5：東工業(株) R 5：(株)フタバ工芸社
事業の効果	
春採生活館を改築しアイヌの儀式や春採のアイヌ古式舞踊等の伝承活動を執り行うための文化伝承室とアイヌ語教室等を通じたアイヌの人々と地域住民との交流活動を行う地域交流室等を整備することによってアイヌ地域交流拠点として機能強化を図った。	
事業の進捗状況	事業実施主体
⑬ 緑町生活館アイヌ地域交流拠点事業については、3ヶ年継続事業として、令和3年度は新型コロナウイルス感染防止のため1回の実施となったが、令和4年度3回、令和5年度3回の計7回実施し事業終了。地域の交流拠点として整備された緑町生活館を利用して、幼稚園児から高齢者までの幅広い世代が交流しながらアイヌ民族の伝統的な踊りや遊びなどアイヌ文化を体験した。	釧路市
事業の効果	
参加者数も着実に増加しており（延べ 154 人）地域住民の幅広い世代がアイヌの有識者からアイヌの歴史や文化を正しく楽しく学ぶことで、アイヌ文化への関心と理解を深めることができた。	

3. 今後の方針等

(コメント)

- ① 体験交流を推進するためには、今後さらに有用植物が必要となることから、伝統的なアイヌ文化・生活の場の再生支援事業で伝統的空間の維持管理と有用植物の育成を進めるとともに、体験交流事業を通じアイヌ文化のより効果的な普及啓発を実施する。
- ② アイヌ文化の推進のためには多様な手法による普及啓発を行うことが重要であることから、阿寒湖原産のヒメマス祭り（カパチェブノミ）情報発信事業については、作成した記録映像を用いてヒメマス祭りの更なる効果的な情報発信につとめるほか、引き続きアイヌ文化を解説するパンフレットの制作を通じて、阿寒湖のアイヌ文化の普及啓発に取り組んでいく。
- ③ アイヌ音楽文化育成事業については、伝統的なアイヌ文化・生活の場の再生支援事業に組み入れ、音楽教室のカリキュラムをさらに充実させるなどして伝統文化の保存・継承を図り、アイヌ音楽文化の普及や啓発を促進する。
- ④ 阿寒湖アイヌ文化体験事業については、一連の改修によってアイヌ文化を体験できる機能が強化されたオンネチセをより有効に活用し、アイヌ文化の新たな体験メニュー等を開発することで、阿寒湖のアイヌ文化の普及啓発・情報発信を強化していくとともに観光客の誘客にもつなげていく（第1期計画での目標は達成しており、第2期計画での目標設定なし）。
- ⑤ ・アイヌ文化ガイド事業については、ガイドツアーの多様化や付加価値向上を目指しながら、ニーズに対応するための人材確保が必要であり、阿寒アイヌ工芸協同組合と連携しつつ、新たなガイド人材の育成に取り組んでいく。
・阿寒湖アイヌアーティストのブランド化事業については、阿寒湖アイヌ文化ブランド化に向けた知的財産保護事業に組み入れ、新たな阿寒湖アイヌアーティストの発掘や商品について情報発信を継続して行う。
・アイヌ文化関連観光プロモーション事業については、阿寒湖アイヌコタンへの来訪者の増加等を図るため、阿寒湖アイヌシアターイコロにおける新演目の開発などを行うとともに、多様な媒体を効果的に活用し、阿寒湖のアイヌ文化の魅力を国内外へ発信するプロモーションなどに取り組んでいく。
・アイヌ文化情報発信体験拡散プロモート事業については、引き続き国内の大都市圏やアイヌ文化に馴染みの少ない地域を中心に、伝統的なアイヌ古式舞踊等の公演活動を行うとともに、それぞれの地域の観光事業者などに対してプロモーション活動を継続することで、アイヌ文化の普及啓発はもとより観光誘客にも取り組んでいく。
・アイヌ文化フェスティバル開催事業については、アイヌ民族の伝統文化や音楽、古式舞踊、食など阿寒湖のアイヌ文化の多様な魅力を国内外へ発信するイベントを開催していく。
- ⑥ 阿寒湖アイヌ文化ブランド化に向けた知的財産保護事業については、引き続き相談業務やラッピングバスの運行のほか、新たな商品パッケージの開発等を通じて、アイヌ文化の正しい理解の促進と、普及啓発に向けた取組みを継続していく。

- ⑦ 阿寒湖アイヌコタン活性化事業については、阿寒湖アイヌコタンへの来訪者の増加、来訪者とアイヌの語り手との交流等、阿寒湖アイヌコタンの活性化のため、阿寒湖アイヌコタンへの誘客に資する新たな手法の開発を検討するとともに情報発信の取組みを継続していく。
- ⑧ アイヌ工芸技術後継者育成事業については、大型木彫作品等の制作を通じた工芸技術の継承を行う仕組みを構築するほか、阿寒アイヌクラフトセンターを主な拠点として、阿寒湖アイヌコタンの将来を担う工芸家となる後継者を育成するためにアイヌ工芸技術等を体系的に学ぶための次世代育成事業を実施する。
- ⑨ 釧路市立博物館アイヌ文化展示コーナー強化事業については、より多くの来館者にアイヌ文化の魅力を発信するため、多様なテーマの企画展を開催し、その関連行事を通したアイヌ文化の紹介、貴重な所蔵資料の収蔵環境や展示設備の整備に取り組んでいく。
- ⑩ 施設整備のうち、ヒグマ舎については令和6年度工事着工予定。
- ⑪ 高齢者コミュニティ活性化による文化知見の伝承・共有化事業により、アイヌ民族の高齢者が保有するアイヌの文化知見の聞き取り調査と資料化を行うと同時に、故山本多助エカシ資料の翻刻し釧路地方におけるアイヌ語や文化などを明らかにし今後のコミュニティ等活動の基礎資料としていく。
- ⑫ 春採生活館アイヌ地域交流拠点整備事業によりアイヌ地域交流拠点として機能強化を図った春採生活館を積極的に活用し、アイヌの人々と地域住民との交流とアイヌ文化の次世代継承の場として供用していく。
- ⑬ 改修工事が完了した緑町生活館におけるアイヌ地域交流拠点事業については、地域の幅広い住民の交流の場であり、アイヌ文化の伝承・保存活動に関わる施設として、さらなる利用促進を図る。